

原発災害
「復興」の影

■ 今を問う ⑥

「失言の背景は、中央が『県や大熊、双葉両町が金目のごまかり要求するせいで交渉が進まない』という雰囲気をつくろうとしている動きがある」。環境相の石原伸晃(57)が先月、中間貯蔵施設設置をめぐる

月23日、県庁に來た石原に知事の佐藤雄平(66)は先

「地域振興策についてもしり」(水面下の交渉で)地交付金」を用意することで元から非常に高い要求が来ている。しかし、その規模はつかいど迅速に回答を」と要求した。地域振興策は交

付金など財政支援を指す。ない」といふ趣旨の発言を「水面下の交渉など、ほと明らかなにしておらず、県は要求した。地域振興策は交

相手に「金目」を求めた。この方に強く反発した。「地元は高い要求をなして

国と県、両町は、施設を政府側は地元への要求が度をい

交渉難航「地元へのせい」 石原発言の裏に政府思惑

いった線と、ある程度の(74)は「施設めよ」としている。県側振興策や金額を国に伝えた候補地の住民

「最後は金目でしょ」と発の「最後は金目」の話にな

るといふ認識は双方一致をもち、石原発言をめぐり

「交付金を示してからにす。しかし、それも石原

「復興のため」と忍耐は思ふ。「今までは(施設

大熊町から会津若松市にに遠慮があったが、もう開



「金目」発言で謝罪に訪れた石原環境相(左)。ただ、施設設置をめぐり、お金の問題が焦点となっているのも事実だ。6月23日、県庁

場合、国がそれさえあれば、賠償や補償をめぐり、き直つてほしい。『どうせい』と受け取つてしまふ。『金目』と聞かれるなら徹底別、県幹部は交渉の難しさ

を明かし、こう続ける。「最も、『復興のため』と耐え

後には金目といふ発言は、してきた思ひがある」と明かさ